

やまがた 「幸せ」エピソード コンテスト



夢に見るやまがた芋煮マラソン大会

長いトンネルを抜けると雪国なのはあちら様だけではない。ノーベル賞作家の方もトンネルの先の山形美人と恋をなさってもよかった。一昨年、つい長居をしてしまった東京から山形県に戻った。数十年ぶりに帰って来たら美人が多くて驚いた。美しいだけでなく気立ての良い人ばかりだ。これは多分水と空気と食べ物がおいしいからだ。おいしいと言えば、炊き立ての山形米ご飯に茄子の漬物があれば一升飯なんてすぐなくなる。東京に居た頃、社食で山形の話になり「芋煮会は、昔昔蔵王山麓に超巨大な本物のお釜があって、その釜で殿様が貧しい民のために里芋を大量に煮たのが始まりなんです」とうっかりホラを吹いたら、同僚がそれを真に受けて（真面目か！）会社中に言って回ったという心温まる思い出話があります。芋煮会と言えば、子供の頃学校のマラソン大会の後に開催された芋煮会の芋煮のおいしさといったら！忘れぬ思い出です。しょっぱみや甘みや旨味、蒟蒻ネギお肉の香りが鼻と舌に蘇ります。私には夢があります。それは「やまがた芋煮会マラソン」構想。マラソン+芋煮会で、世界中に芋煮のおいしさをアピールするのです。ランナーはゴール後の芋煮を目当てに世界中から山形を目指し、ゴール後のランナーが芋煮をおいしそうに笑顔で頬張る様子が世界中に中継されるでしょう。

ああ、お腹が空いてきた。そうだ今晚は芋煮にしよう！丸茄子の漬物も添えて。



やまがた 幸せエピソード コンテスト



四季の五感

山形に住んでいて幸せだなんて思うのが五感で四季を感じられる場所。

視覚で四季の移り変わりを観察

聴覚で生き物たちの声を傾聴

嗅覚で植物の香りや美味しい食べ物の香りを季節ごとに変わる香り

味覚で四季折々の山形の味覚を味わえる

触覚で季節に応じて色々な楽しみに触れ合える

季節によって風景が全く違う山形ですが、出逢えるモノや人、植物、食べ物等がその時どきによって異なる事で大変さや苦勞もありますが、結局幸せを感じれる事が沢山あって毎日が楽しく生活出来る場所だと思っています。



やまがた 幸せエピソード コンテスト



山形、百味百景

学生時代、山岳部で県内の山々を駆け巡りました。四季折々の風景を楽しみながら山頂を目指した日々は、今でも鮮やかな思い出です。尾瀬や八幡平での合宿は、貴重な体験となりました。辛いことが多かった学生時代ですが、山岳部は私にとって心の拠り所でした。

卒業後、県外へ進学就職、Uターンし結婚。今は自然豊かな県内のライトなポツンと一軒家で暮らしています。県外で暮らした経験があるからでしょうか、山形の食べ物の美味しさには感服します。お米、海産物、野菜、山菜、果物、お肉…どれもが最高です。(この時期は内陸風と庄内風の芋煮食べ比べ BBQ がしたいです。)

県外旅行へ行く際も、山形の味と比べるのが習慣になってしまいました。我が家の子供達もしっかりとその舌を受け継ぎつつあります。

山形県は、良いものがたくさんあるのに、うまくアピールできていないと言われます。その不器用さがまた山形の良いところなのかもしれません。でもやはり国内だけでなく、海外の人にも山形の素晴らしさをもっと知ってもらいたいと思います。

当時の顧問の先生が仰っていましたが、山形県は、1日で2000メートル級の山に登り、海で遊び、温泉に入って、美食が味わえる所で、全国を探してもこんな場所は他にはないんだそうです。まさに一石四鳥の贅沢プランですね。



やまがた 「幸せ」エピソード コンテスト



かえりたくなる山形

お正月やお盆、家族が集まって帰って来られる場所が山形にある。山形に帰ってくると、美味しいご飯やごちそう、果物までたくさん食卓に並べられている。おばあちゃんの「けえ〜」にはますますみんなの食欲がつかれてしまう。幼い頃はそれが当たり前だったが、当たり前だったことが年々特別に感じられる幸せは、山形でしか味わえない幸せだと感じた。県外に住んでいたこともあったが、山形に帰って来るとほっとして、居心地が良くて、安心していたことを思い出す。やっぱり私には山形がっているのだと実感した。

